タンボの中に赤旗
底力示した地域闘争本部

企闘、賃闘突入とともに、地域に闘いはうつされ、各地域分会は闘争態勢にきりかえ、いちはやく〃地域闘争本部〃をもうけた。社宅はいわずもがな、菜の花が咲きほこる農村の一隅に地域闘争本部を示す「赤旗」がひるがえり、道ゆく人の目を見はらせていた。〃地域がとても落着いているのをみてビックリした……〃と杵島から交流にきた組合員は感想の一端をもらしていたが、地域闘争本部を中心にした地域の闘争態勢は、自信に満ちた表情で烈々の闘志をみせていたが、闘争を通じた地域闘争本部の歩みをふりかえってみよう。

着到で人員把握

ほとんどの分会が毎朝、着到制を実施しており、本部へ着到、または班長が人員を掌握して本部へ確実に報告するなど、人員掌握にはことに神経をつかい、いついかなる緊急動員があつても応じられるような態勢をつくつていた。

「いつ動員がきても、うちは九十五％は動員できる」これは小浜北地域本部で、闘争委員長が自信たつぷりにもらした言葉であるが、他分会でも、これに優るとも劣らぬ即応態勢はできあがつていたようだ。

外来は、ことに連絡がむずかしいが、ここでは行動隊の若人たちが大きな役割りをしめしてきた。情報はまず、班長へ自転車で連絡、班長から分会員へと伝えられるがひろい区域にわたる点々とした班長宅へ、隊員たちは若さにものをいわせて自転車でかけだしていつた。

四山福外来の闘争委員長は「行動隊がいますので大助かりです。毎日つめてもらつていますし、言伝けをたのんでも、イヤな顔ひとつもせず、テキパキとやつてくれます。こんどは、この人たちを中心に、分会の態勢をもりあげフルに活動してもらいたいと思います」と語つていた。

取組む一万円生活

万田分会では日を追うにつれて役員も積極的になり、分会で「決起大会」をひらいたが九十五％という好成績を示した。ある委員長は「ふだん組合に協力的でないと思つていた人がとても積極的に協力され、頭がさがりました」と感慨ぶかそうに語つたが、これは〃こんどの闘いには負られない〃という気ハクが、組合員の間に底深くしみこんでいたのを物語つている長期闘争といわれたこんどの闘争は、主婦の〃台所との闘い〃ともいえただろう。一万円生活に真剣に主婦はとり組んでいたし、まず「くいのばした」と小浜北では近隣の商店と生活対策委員会が話しこんで、新時代やその他の品を買つても支払いは最高些額に、のこりは徐々に、またはスト終了後に支払うことをきめたり、ミソ・シヨウ油の生活必需品は〃掛買い〃することに成功していた。

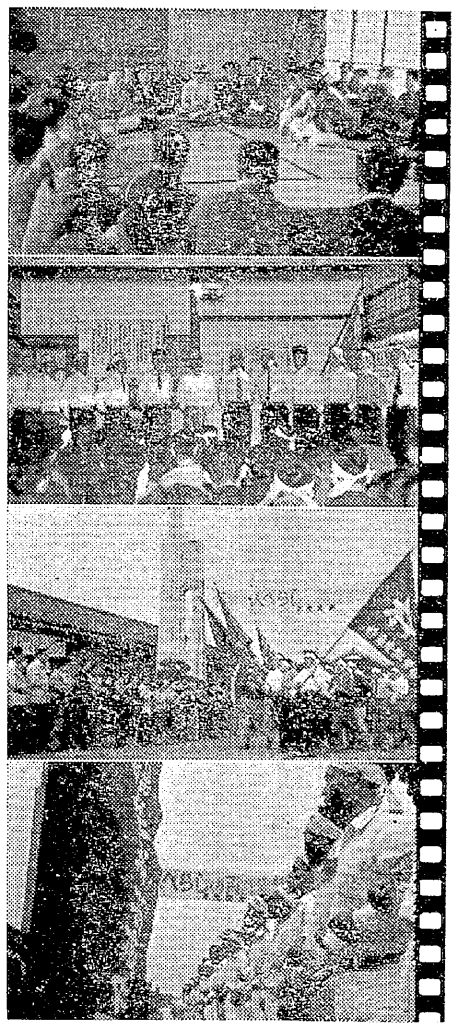
主婦のこうした血みどろな取組みが、極度の節約として夫たちにも反映しないはずはなく、「パチンコに行く人がうちの分会ではほとんどなくなりました」と得意そうに語る闘争委員長もいた。

盛んだつた地域交流

変つた闘争本部として、農村にかこまれた平井校区の地域闘争本部では、こんどの闘争を機会に〃労農提携〃を真剣に討議していた。ここでは、ほとんど九十％が農家のため、長期ストに備えて自家生産に馬力をかけながら、野菜出荷の督励、出荷予定数量の掌握などに役員たちが当つていた。

また、四山、小浜北などでは自転車隊を編成し、他分会への激励、交流にあたつていたが、この交流はしだいに他の分会にも波及して各地区でさかんな交流が日ましに多くなり、意見を交換しあう機会がもたれていた。

新港では児童遊園地の整地を手がける一方、マーケットと座談会をもち、生活対策へのりだしていたある闘争本部では公私傷病者の協力がすくないとの声が高まつたので、原因を調べたところ、病気が治つている人が公私傷といつわつて着到にもこないことがわかり、本人に注意した。そのことはこういうこともすくなくなり、みんなが一体となつて学習、交流座談会、ソフト・ボールなどで融け合つていたという。



【闘争すなつぷ】(1)港務支部行動隊と主婦の交流。(2)製作コーラスの指導。(3)本部を激励する杵島の仲間。(4)同新港分会

主婦会を激励
伊賀炭鉱の主婦来山

主婦会では、三月三十一日中央執行委員会を本部大会議室でひらいたが、会場へ福岡県の伊賀炭鉱（二三五名）主婦会会長の坂本とも子さん、副会長藤山さぬよさんの両人が出席し、企業整備に夫たちと手をとりあつて闘つている三池の主婦会へ激励をおこなつた。

伊賀炭鉱にも正式な発表はあつていないが、三池とおなじように企業合理化の気配があり、主婦会としても、闘いに直面したらさいごまで闘うつもりです。三池は大手の炭鉱ではありますが、考えは私たちとすこしもかわりませんし、同じようなことで闘つておられるのをみて、激励かたがたこんどの闘いのすすめ方を学ぼうと思つています。と挨拶し、このあと、本部役員と懇談をおこなつた。

相つぐ合宿訓練
四山、港務、三作の行動隊

こんどの闘いを通じて行動隊の活動は大きく評価されている。とくに外来分会での行動隊は、分会の支柱となつて連絡や諸活動にあたつた。

新行動隊編成いらい各支部では学習が急速にさかんとなり、三川支部行動隊の合宿訓練を皮切りに、四山支部では二十五、六、七の二泊三日、同じ日に港務支部では二十五、六、七、八の三泊四日、製作支部では四月二、三、四日の二泊三日でそれぞれ合宿訓練をおこなつた。

四山支部では友愛クラブで行動隊の班長以上を対象に、学習、討論を主体とした合宿を強化、隊員にバツク・ボーンとなる理論を身につけてもらつた。

港務支部では学習に天野先生を招き「弁証法と唯物論」のテーマで学習をおこなつたほか、灰原書記長、塚元支部長を招いて組織、企闘の問題で勉強した。とくにここでは全隊員を対象に、保安要員を除き連日百三十名ばかりが出席した。午前六時三十分起床、朝の体操をおこない七時にデモ、朝食ののち、九時から学習に入り午前中をすごす。

午後は四時まで交流を主体に、婦人部、主婦会との話合い、東庄青婦協との懇談交流や、行動隊の中にある文化班の指導で労働歌の練習や、ピケ訓練などを実施した。夜は労働講座をおこない、そのあと一日のまとめとして反省会、十時就床という、一日ギツシリつまつたスケジュールである。

なお、この合宿訓練には、隊員たちが米持参、連日百数十名という大世帯のため、炊出しには主婦会があたり、行動隊訓練に一役買う協力もあつた。

四山、港務のあとにつづいて製作支部では二日から四日まで銀水社宅集会所で、班長以上とコーラスの人たちを対象にしておこなわれた。

学習が主軸で、その合間を縫つてコーラスの人たちによるレツスン学習は「ものの見方と考え方」を天野先生からきき、地域分会との交流座談会、他サークルとの交流討論会、反省というスケジユールとくに自炊で三日間をすごし、三人ほどが交替で炊飯にあたるなど実のある団体訓練を実施した。

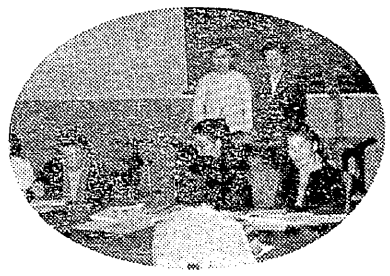
こういう行動を通じて行動隊のレベル向上と相まち、こんどの活動に大きな期待がかけられている。

（上）友愛クラブでの四山行動隊の学習
（下）炊出しで協力する新港主婦

方別で組織づくり

着到も各地とも好成績をみせていた。緑ガ丘の既分会では、着到責任者をきめ、各人の一日の行動予定を記録して完全掌握をはかつていたという。土手町山下分会では班長が着到の責任をもち、闘争本部に各人の行動の詳細をつくつて記録したり、また用事があり地域を留守にするときは、かならず闘争委員長の諒解を受けなければならないほどの徹底ぶりをみせていた。

若葉分会では、スト突入後、緊急動員に備えて各方別の組織づくりを完了させた。そして教宣活動に重点をおき、分会員に情報を徹底させるために班長会議、班会議、情宣大会と繰かえしひらかせていた。また〃仲よし運動〃をおしすすめるためのレクレーションを実施、主婦会の協力をえてさかんにおこなわれていた。



こういう態勢とともに、スト突入ごには個人着到は百％というすばらしい成績をおさめ、闘争意欲も旺盛そのものであつた。

碁の腕も上つた

こうした態勢固めは分会員の闘争意欲をもりあげはしたものの、あの「一一三日闘争」にみられる悲壮感は、こんどの闘争ではひとかけらもみられなかつた。これは、闘いにたいする自信が、ここまで組合員、主婦を育てあげたのだろう。

慰問と激励
本所行動隊の巡演

本所行動隊のコーラス、楽団を主体とした一五〇名は、闘争中社宅を慰問激励して好評を博したが、そのごは引つづき天領病院を皮切りに、職場の巡回慰問をおこなつてきた。在来の楽団演奏、コーラスとは毛色をことにして、楽団、コーラス、詩の朗読の三位一体の劇化をこころみ、闘いに対する労働者の怒りをこめて、アツピールするなど、新しいこころみをみせている。

このほか、隊員たちの踊りや、どじようすくいなど珍芸も披露、青空の下に楽しい慰安激励のページをくりひろげた。

【写真は天領病院での職場慰問】

無期限スト突入いらい、国鉄志免杵島をはじめ他単産からの交流もさかんだつたし、三池からも勝田炭鉱などへ進出して交流しあつたが、三池へ来ていた交流団の人たちは、異口同音に地域態勢が完備していたこと、意外なほどに落着いていたことを口々にのべていた。このように、各闘争本部では激励交流、地域学習、ソフトボール、バレーボールの他分会との交歓試合など、余裕しゃくしゃくたる態度をみせていた。

二当一落の市議選
悪どい違反のかずかず

こうした態勢とともに、スト突入ごには個人着到は百％というすばらしい成績をおさめ、闘争意欲も旺盛そのものであつた。

碁の腕も上つた

こうした態勢固めは分会員の闘争意欲をもりあげはしたものの、あの「一一三日闘争」にみられる悲壮感は、こんどの闘争ではひとかけらもみられなかつた。これは、闘いにたいする自信が、ここまで組合員、主婦を育てあげたのだろう。

肩たたきて宣伝

【その三】PR、HRが非常に功妙になつてきた。部課長の出退時に、出会つた組合員に先方から「お早うございます」「いまお帰りですか」と愛想よく肩タタキをし職場の中では「会社の経営が苦しいそうですから器具、器材はていねいに取扱つて下さい」と宣伝、とくに市議選では「組織から推薦する方法は住民の代表としては適格でなく、推薦方法は市民行政から逸脱する」と組織破壊を企む会話やデマを流している。

冠婚葬祭係りも

【その四】組合員の冠婚葬祭の情報キャツチは素早く、担当課長が訪問しているが、あまり情報が敏速なため、会社側は末端職制にまで完全に信頼できる情報連絡者をおいているという。とくに、業務上負傷、病気の組合員宅には見舞品が配られたり、自宅には入れかわり立ちかわり職制、上役が顔をみせている。

停年退職者を利用

【その五】二月中旬、もと三鉱につとめていた停年退職者が三十名ほど港クラブに集つた。会社側の市議候補があれこれ世話をしてこまめに働いた。やがて盛勢な会食がはじまり、アルコールがほんのりとまわつたころ、選挙依頼と思われる話しが関係者からされ、おどろくことには保守の市長候補も顔を出した。きくところによれば舞踊このような会がもたれているという。

賓弾早くも飛ぶ

【その六】玉川のあるところに、市内中心部から立候補した某候補「お宅は何人だからいくら」と現ナマを封筒に入れてわたしたという話がある。金額は目下わからないが、そのうちにわかるだろう。それにしても早いもので、実弾は投票日の数日前か、前日ごろに打つのが選挙の常識だが、これは何もかも早くなつた選挙戦の結果であろう。

ある分会のごときは、毎日闘争本部へつめかけ、支部との連絡などの暇をみては囲碁、将棋をやつていたため「とても腕をあげた」ととんだ自慢がふえたため、苦笑いをしていた人もいた。

また「こうハラをすえて闘つているので、組合もしつかりたのみます。ストは何日つづくかわかりませんが、こうなつた以上は〃勝ちぬくため〃トコトンまでやつてもらいたい。闘争資金がなければ、アルバイトでもしながら難事でもくつて頑張るつもりです」と烈々たる闘志をみなぎらせてきた。

こうしたなかで、平和闘争の推進も着々とすすめられてきた。

すみれ分会では四月に入るや一、三、四日と連日のように〃平和闘争座談会〃をくりひろげて、われわれの代表を議会へおくりこむため頑張つている。

外来の白川分会ではスライドを映写、平和闘争の意義を分会員に徹底させるとともに、座談会をひらいていた。このように各分会では企闘と歩調をあわせて、平和闘争への高まりもしだいにピツチがあがつていつた。

一方、各闘争本部から組合本部への激励もあいついできた。また、製作支部、本所のコーラスは地域へ進出し、激励慰問と歌唱指導もかねて各闘争本部を訪れるなど、地域闘争本部を中心とした闘争態勢は急激に高まりをみせていた。